

# 第12回

## 台東区子供歴史・文化検定 解答と解説（小学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト 第三版』  
の頁数を掲載しています。

令和3年度 台東区教育委員会



問1. 正解 ア

貝塚かいづかがあることから、上野桜木うえのさくらぎのある上野台うえのだいは海に近く、人が住んでいたことが分かります。(13頁)

問2. 正解 エ

徳川慶喜よしのぶは、最後の江戸幕府将軍で第15代です。(29頁)

12代 徳川家慶いえよし

13代 徳川家定いえさだ

14代 徳川家茂いえしげ

問3. 正解 エ

上野公園うえのこうえんにある摺鉢山古墳すりばちやまこふんは前方後円墳ぜんぽうこうえんふんで、古墳時代こふんじだいにつくられました。(14頁)

問4. 正解 ア

古墳時代こふんの人々は、地面ほを掘り下げ、柱を立てて、ワラやカヤなどで屋根をふいた、たてあなじゅうきよ竪穴住居に住んでいました。イの長屋は江戸時代えど、ウの文化住宅ぶんかじゅうたくは大正時代から建てられ、エのアパートメントハウス(アパート)が最初に建てられたのは明治時代のことです。(14～15頁)

問5. 正解 エ

アメ横は終戦直後の混乱こんらんした時代に生まれた商店街です。アの仲見世とウの浅草広小路ひろこうじは江戸時代にすでに商店が立ち並びならにぎわっていました。イの谷中銀座ぎんぎは1945(昭和20)年ころに生まれ、商店街として発展はってんしていきました。(42頁)

問6. 正解 イ

江戸時代の初めの寛永寺創建そうけんの時に、天海僧正てんかいそうじょうによりつくられました(21・97頁)

問7. 正解 ア

人々は陸路<sup>りくろ</sup>を歩き、重い荷物などは船で運んでいました。現在でも重いものは船で運搬<sup>うんぱん</sup>されることが多く、大きな工場などが海岸近くに建設<sup>けんせつ</sup>されることが多いのはそのためでもあります。(17頁)

問8. 正解 イ

国民学校初等科<sup>こくみんがっこうしょとうか</sup>の3年生から6年生の児童らは、学童疎開<sup>がくどうそかい</sup>の対象になりました。下谷区<sup>したやく</sup>の学校は福島県<sup>ふくしまけん</sup>、浅草区<sup>あさくさく</sup>の学校は宮城県<sup>みやぎけん</sup>へ疎開しました。会津美里町<sup>あいづみさとまち</sup>は当時の疎開先<sup>そかいさき</sup>の縁<sup>えん</sup>で友好都市<sup>ゆうこうとし</sup>になりました。(41頁)

問9. 正解 イ

鎌倉時代から室町時代にかけては、江戸氏という武士が石浜に城を構えて地域支配<sup>ちいきしはい</sup>を行っていました。(17頁)

問10. 正解 エ

上野公園は江戸時代より400年近く花の名所として続き、今でも多くの人を訪れます。花を愛する心は人に対する思いやりを育み、うるおいのある町づくりにつながります。(71頁)

問11. 正解 ウ

江戸時代は服装に厳しい規則<sup>きびきそく</sup>が設けられていて、行事<sup>ぎょうじ</sup>や役職<sup>やくしょく</sup>により着るものが決められていましたが、一般的な武士の正装<sup>せいそう</sup>は小袖<sup>こそで</sup>の上にかみしも<sup>かみしも</sup>と袴<sup>はかま</sup>でした。(46頁)

問12. 正解 エ

靴は編み上げのブーツでした。

ハイカラの由来は英語の丈の高い襟<sup>えり</sup>「ハイカラー」です。西洋風で目新しくしゃれている事を「ハイカラ」と呼び、西洋風のひさし髪をハイカラ髪といい、その髪型をしている人をハイカラさんと呼びました。(51頁)

問13. 正解 ア

江戸の住民（長屋の借家人を除く）は石高や家の幅（間口）によって決められた水道料金を負担しました。亀有上水・青山上水・三田上水・千川上水は1722（享保7）年に廃止されました。家庭からの排水や雨水などは下水道に流されました。（49～50頁）

問14. 正解 ウ

瓦版は、江戸時代から明治時代にかけて数多く摺られた、現在の新聞や雑誌などにあたる大衆向けの印刷物でした。（67～68頁）

問15. 正解 ウ

関東大震災では、下町の住宅密集地を中心に火事で多くの住宅が焼けてしまいました。その後学校をつくる時に、学校の隣や近くに公園を設けることによって、避難場所としました。（38～39頁）

問16. 正解 ア

区内には、寛永寺と浅草寺に「時の鐘」があります。現在でも毎日、寛永寺は朝夕6時と正午、浅草寺は朝6時に鳴らされています。（67頁）

問17. 正解 ア

簪の需要は減りましたが、江戸つまみ簪の技法は服につけるブローチなど色々な作品に応用されています。区内では一般の人に作り方を教えているところもあります。（79頁）

問18. 正解 エ

徳川家康は、江戸と各地を結ぶ日本橋を起点として5つの街道の整備を行いました。現在この起点という意味の「日本国道路元標」が日本橋の中心部に設置されています。この文字を書いたのは第61～63代の総理大臣佐藤栄作です。

なお、日本橋の橋の欄干と高速道路の壁面にあるプレートの「日本橋」の文字は、徳川慶喜が書いたものです。（87～88頁）

問19. 正解 ア

イは同時に<sup>うんこう</sup>運行されている昭和30年の写真がテキスト85項に  
掲載<sup>けいさい</sup>されています。ウは<sup>あさくさばし</sup>浅草橋が誤りで、浅草橋が架かるのは<sup>かんだがわ</sup>神田川で  
す。エは人がかつぐ、<sup>ふんたい</sup>蓮台が誤りで、大きな川を渡る時には主に<sup>わたしぶね</sup>渡し舟  
を利用していました。(95～97頁)

問20. 正解 エ

六区は<sup>ろっく</sup>火事、<sup>かじ</sup>震災、<sup>しんさい</sup>戦災を受けた後でも、その姿を変えながら<sup>にぎ</sup>賑わ  
いを保ってきました。(108～109頁)

問21. 正解 ウ

<sup>もんぜんまち</sup>門前町が成立することによって、その<sup>しゅうへん</sup>周辺も<sup>はってん</sup>発展し、<sup>しがいちか</sup>市街地化が  
いっそう進むという<sup>こうか</sup>効果もありました。(105頁)

問22. 正解 ア

<sup>うえの</sup>上野は<sup>たかだい</sup>高台が連なっていることから、<sup>しのぼずのいけ</sup>不忍池はありましたが<sup>だいきぼ</sup>大規模  
<sup>たんぼ</sup>な田圃はありませんでした。(101頁)

問23. 正解 ウ

飲食店向けの食器、家具、道具などをあつかう「<sup>かっぱ</sup>橋道具街」  
の名は全国に知られています。アは<sup>おかちまち</sup>御徒町、イは<sup>はながわ</sup>花川戸、エは<sup>あさくさ</sup>浅草橋、  
<sup>くらまえ</sup>蔵前が中心になっています。(113～114頁)

問24. 正解 ア

<sup>せつぶん</sup>節分の<sup>ぎょうじ</sup>行事には、お寺や神社などにより色々な方法があります。「鬼  
は外、福は内」というかけ声が一般的ですが、「福は内、福は内」と  
いうお寺や、「鬼は外、鬼は外」という神社もあります。(117頁)

問25. 正解 イ

東京100年を記念して、<sup>あさくさ</sup>浅草寺の「<sup>けいあんえんぎえまき</sup>慶安縁起絵巻」のなかの<sup>さいれい</sup>祭礼行  
列をもとに、<sup>あさくさ</sup>浅草観光連盟によって創作されました。(119頁)

問26. 正解 エ

まないた開きは、二匹の鯉こいをまないたにのせ、手を触れずに長い箸はしと包丁で調理する儀式ぎしきです。(117頁)

問27. 正解 ウ

年末の酉とりの市では「福かを搔きこむ熊出」として、お多福たふくや千両箱、稲穂えんぎものなどをつけた熊手が縁起物として境内で売られています。(124頁)

問28. 正解 ア

毎年1月8日に行われる行事で、竹をもった子供たちが「とんとんと」といいながら地面をたたきます。正月飾りかざりを燃もやすこの火にあたると1年を元気に過ごせるともいわれています。(116頁)

問29. 正解 ア

戦争中は軍により自由な発言はつげんが制限せいげんされ、演劇えんげき・落語らくごなども内容を厳しく監督かんとくされました。(134頁)

問30. 正解 ア

小野照崎神社おのてるさきじんじやには、富士山から溶岩を運んでつくった高さ約5mの塚があります。(139頁)

問31. 正解 エ

最近では小惑星探査機しょうわくせいたんさき「はやぶさ」の無事の帰還きかんなども祈願きがんされたといえます。(134頁)

問32. 正解 エ

1923(大正12)年、関東大震災かんとうだいしんさいで焼失しょうしつしましたが、第2次世界大戦の空襲くうしゅうの際にはまったく損傷そんしょうがありませんでした。第2次世界大戦より前の1934(昭和9)年に建て替えられていますが、その時に日本画の巨匠よこやまたいかん横山大観によって描えがかれた天井絵てんじょうえ「龍りゅう」が神社を火事から守ったと言われています。(139～140頁)

問33. 正解 イ

待乳山<sup>まつち やましょうでん</sup>聖天は、正式には待乳山本龍院<sup>まつち やまほんりゅういん</sup>といい、大根と巾着<sup>きんちやく</sup>（砂金<sup>さきん</sup>袋<sup>ぶくろ</sup>）がシンボルとなっています。大根は消化がよく栄養価が高いところから健康増進<sup>けんこうぞうしん</sup>・一家和合<sup>いっかわごう</sup>のもと、巾着は金銀財宝<sup>きんぎんざいほう</sup>で商売<sup>しょうばい</sup>繁盛<sup>はんじょう</sup>を表しています。（128～129頁）

問34. 正解 イ

東京には5つの目の色をした五色(ごしき)不動があり、五色とは目白・目赤・目黒・目青・目黄の各不動のことです。現在の目白(豊島区)・目黒(目黒区)の地名は、この五色不動にちなんだものです。（135頁）

問35. 正解 ウ

1949(嘉永<sup>かえい</sup>2)年に蘭方禁止令<sup>らんぽう</sup>という法律が出され、オランダ医学の勉強は禁止されました。それに対抗して、蘭方医の伊東玄朴<sup>いとうげんぼく</sup>は同士のつり種痘<sup>しゅとう</sup>を行う種痘所を設置しました。種痘所が効果を上げたことから、幕府も種痘の普及活動<sup>ふきゅうかつどう</sup>を認めるようになりました。この種痘所は、現在の東京大学医学部の始まりとなったとされています。（149～150頁）

問36. 正解 ウ

この作品は、浅草鳥越にあった江戸幕府の「天文方」の屋敷を描いたものです。天体の位置を測定する「渾天儀<sup>こんてんぎ</sup>」を据えた場所から役人が富士山<sup>なが</sup>を眺めています。（147頁）

問37. 正解 ア

江戸時代中期に『誹風柳多留<sup>はいふうやなぎだる</sup>』という本を出して有名になりました。柄井家は代々、浅草新堀端<sup>しんぼりばた</sup>の地主でした。川柳という号は代々社中<sup>しやちゅう</sup>で受け継がれ、現在は16世尾藤川柳<sup>びとうせんりゅう</sup>です。（165頁）

問38. 正解 ウ

コンドルは建築家、ボードウィンは医師、モースは<sup>おおもりかいづか</sup>大森貝塚の発見者です。(32、157～158頁)

問39. 正解 ア

ロッシュは<sup>ちゅうにち</sup>駐日フランス公使、パークスは<sup>こうし</sup>駐日イギリス公使、ゴローニンはロシアの<sup>ぐんかん</sup>軍艦「ディアナ号」の船長です。(166頁)

問40. 正解 イ

<sup>ただたか</sup>忠敬の時代には飛行機はありませんでした。飛行機が実用化されたのは、20世紀に入ってからです。(148～149頁)

問41. 正解 ア

石浜城は鎌倉時代から室町時代にかけて存在したようです。国立西洋美術館は1959(昭和34)年に建てられたものです。地下鉄は1927(昭和2)年開業です。(188頁)

問42. 正解 エ

日本初そしてアジア初の地下鉄は、昭和2年に上野～浅草間で開業しました。(186頁)

問43. 正解 ウ

自転車はヨーロッパで発明されました。当時の自転車は非常に高価で、庶民は手に入れることができませんでした。(181頁)

問44. 正解 ア

ソメイヨシノは、<sup>よしのざくら</sup>吉野桜などと呼ばれていましたが、上野の博物館員の<sup>ふじのきめい</sup>藤野寄命によって1900(明治33)年に正式に名づけられました。(177頁)



問45. 正解 エ

1949（昭和24）年に両校が統合され、東京藝術大学となりました。（177頁）

問46. 正解 ア

中村不折<sup>なかむらふせつ</sup>は約30年間、根岸に住んでいました。不折が書道研究のために集めた資料や美術品を納めた書道博物館は、平成7年に台東区に寄贈<sup>きぞう</sup>されました。（196頁）

中村不折は、夏目漱石『吾輩は猫である』の挿絵作家としても知られています。

問47. 正解 エ

岩崎邸は、越後高田藩<sup>えちごたかだはん</sup>榊原家<sup>さかきばらけ</sup>の屋敷があった土地に、ジョサイア・コンドルの設計により岩崎久弥<sup>いわさきひさや</sup>が建てた邸宅<sup>ていたく</sup>です。（209頁）

問48. 正解 エ

松方コレクション<sup>まつかた</sup>はフランスから返してもらったもので、当初の美術館はフランス美術館という名前でした。（207～208頁）

問49. 正解 エ

朝倉彫塑館<sup>あさくらちようそかん</sup>は、彫塑家<sup>ちようそか</sup>の朝倉文夫<sup>ふみお</sup>がアトリエ兼自宅<sup>けんじたく</sup>として使用していた建物を一般に公開しているものです。（195頁）

問50. 正解 イ

樋口一葉<sup>ひぐちいちよう</sup>は明治時代の女流作家です。一葉の代表作『たけくらべ』は、下谷龍泉寺町<sup>したやりゅうせんじまち</sup>に住んでいたときに構想を得て執筆<sup>しっぴつ</sup>されました。（197頁）

